

紙上よい仕事研究交流集会

感染対策で中止になった「全国よい仕事研究交流集会」。分散会で発言予定だった事業所の取り組みを紹介していきます。

「放り出したらどうなる」 困難なケースも受け入れる小規模

ささえ愛ゆう(ささえあい)コミュニティ生活協同組合新潟)

・事業 小規模多機能 居宅介護
・特長 常に登録定員29人を維持できている。利用者の多くが処遇困難ケース。

・スガが必要だった事情もありません。

・漁師町で新しいものをなかなか受け入れられないところがあります。

役に立ちたいと

2012年、新潟県新発田市に、管理者の藤又靖子さんが祖母の出身地の役に立ちたいという志で開設しました。地域には特別養護老人ホームとデイサー

時間がかかりました。

しかし、藤又さんは市の社会福祉協議会や高齢者施設などで統括責任者などとして働いてきた関係で、居宅介護事業所や地域包括支援センター、病院などから利用者などを紹介してもらい、翌年には定員いっぱい登録になりました。

自治会長の父を

地域とのつながりをつくるために、藤又さんが小学校に直接出向いて、職業体験やボランティアなどの受け入れを申し出て、交流が始まりました。町内会加入を目指して町内行事にも参加しています。回覧板で行事のチラシなどを回してもらっても、反応はあまりありませんでしたが、自治会長の父親を看取ることで、「あそこはいい施設」と評判になり、徐々に認められるようになり、地域の有力者や発

大切さを感じました。地域柄、良いことも悪いことも口伝てであつという間に広がります。1人ひとりを大事にしていくことがとても大切です。

レクリエーションでのボランティアの受け入れもしています。ほとんどが利用者の家族で、踊りや歌などを披露してもらったり、お茶出しなどの仕事も。

「最期まで看る」

ゆうは困難ケースも積極的に受け入れ、最後まで看取るため、居宅や病院、地域包括から厚い信頼を得ています。

84歳で要介護5の女性、次女と同居し、日中独居で近所との付き合いはありません。症状は脳梗塞、アルツハイマー型認知症、慢性硬膜下血腫、骨折。転倒骨折から県立病院へ入院しましたが、見守りが必要で、夜間もベッドから下りるなどし、強制退院に。私立病院へ転院できま

と自傷行為、大声で叫ぶ、昼夜逆転など。これだけ関わっても変化は見られません。この状態で受け入れる施設はなく、ゆうで放り出したら利用者や家族の生活はどうなるのかと考え、職員全員が看取ると覚悟をしています。

私たちは、「どんな人も最期まで看る」を信念に、看取りを積極的に行っています。どのサービスマンにもはまらず、こぼれ落ちた人の最後の誓いと自負しています。

最近では40歳以上65歳未満の若年者で、生活困窮や長年ひきこもっているほとんど働いたことがない人などの支援にも入っています。

職員は15人で、他の施設に比べて人員配置は厚くありませんが、1人ひとりのケアの能力は高く、少数精鋭。困ったことがあればすぐに報告して、常に情報共有を心がけています。月1回の会議では、経営についても話し合い、無駄も減らしています。

そのおかげで、一時金は7・5カ月出るなど、待遇もよく、職員のモチベーションが上がっています。(主任、社会福祉士 中村舞)



ゆうでは9月に納涼祭を行なっている。職員はゆかた姿で盛り上げる。左端が中村さん